

2026年2月3日

報道関係各位

株式会社ゼンリン
佐世保市消防局

－ゼンリン×佐世保市消防局－ 長崎県初、佐世保市における火災リスクエリアの可視化・分析を実施 火災予防施策への有用性を検証開始

株式会社ゼンリン(本社:福岡県北九州市、代表取締役社長:竹川道郎、以下ゼンリン)と佐世保市消防局(局長:合志直喜)は、佐世保市内の火災リスクエリアの可視化・分析を長崎県で初めて行い、佐世保市消防局が推進する火災予防施策における有用性の検証を開始したことをお知らせします。なお、本取り組みは2022年7月20日にゼンリンと佐世保市で締結した包括連携協定の取り組みの一環です。

■背景

近年、甚大な被害を伴う火災事案が相次いで発生しており、火災リスクへの備えは社会的な喫緊の課題となっています。たとえば、空き家の密集するエリアでは雑草や樹木の繁茂により、延焼リスクが増大し、大規模火災へ発展する危険性が指摘されています。こうした地域特有の課題に対し、平時から住民一人ひとりが高い防災意識を持ち、火災リスクへの備えを講じることも重要です。

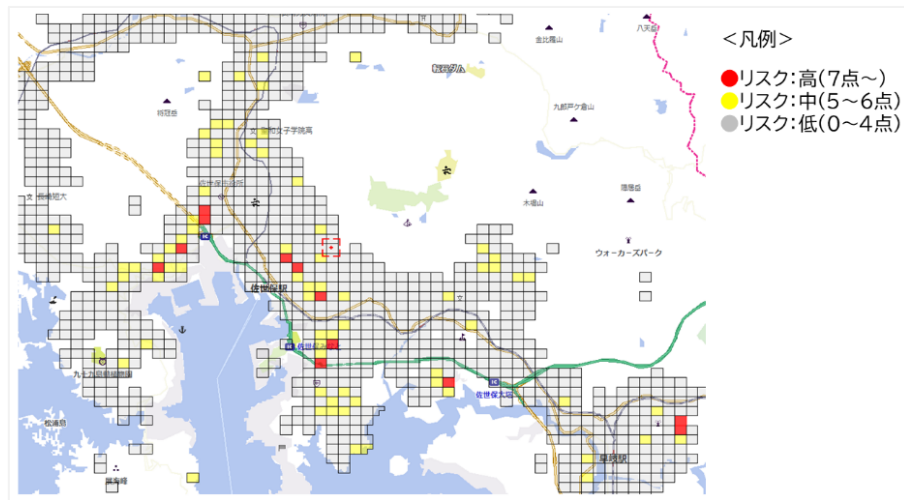
佐世保市消防局では、地域における消防訓練の支援や市民への注意喚起など、火災リスク低減に向けた啓発活動を積極的に展開しています。こうした中、より多くの住民が地域特性に合わせた火災対策を実施できるよう、さらなる火災予防対策の強化を検討していました。

ゼンリンは、中長期経営計画「ZENRIN GROWTH PLAN 2030」で「共創社会における社会的価値創造」をテーマに掲げ、データを活用して地域や自治体、各産業界の抱える社会・企業課題の解決を支援するDXソリューションの開発に取り組んでいます。

ゼンリンと佐世保市消防局が連携することで、火災予防対策を更に強化できると考え、共同で火災リスクエリアの可視化・分析をおこないました。

■火災リスクエリアの可視化・分析 概要

ゼンリンが保有する空き家や建物の詳細なデータ(築年数・建物構造等)と、佐世保市消防局が保有する火災情報(過去の火災履歴等)を地図データ上で組み合わせ、住宅火災のリスクを200mメッシュ単位や町内会単位等で可視化・分析しました。各エリアの火災リスクを把握することで、それぞれのエリア特性に応じた市民への啓発活動や、効果的な火災予防施策の策定を支援します。



▲火災リスクを200mメッシュで可視化したデータ

■各者役割

ゼンリン	地理空間データ、可視化・分析ノウハウの提供
佐世保市消防局	火災データの提供/火災予防施策の検討・実行

■本取り組みにおける今後の展開

今後、両者は共同で分析結果の検証を進め、佐世保市消防局は実効性の高い火災予防施策の検討・策定に役立てていきます。ゼンリンは、本取り組みで培ったノウハウを活かし、全国の自治体等で導入可能な汎用性の高い分析モデルの確立と普及を目指します。

<参考>

ゼンリンと佐世保市との包括連携協定について:

<https://www.zenrin.co.jp/information/public/220720.html> (ゼンリン発表)